

令和6年度 全国学力調査分析 小松川第二中学校〈国語〉

1. 結果の概要

カテゴリー 内容(観点)	問題番号	設問項目	都平均 (%)	全国平均 (%)	本校平均 (%)
言葉の特徴 や使い方に 関する事項	3二	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものと適切なものを選択する	58	53.8	64.9
	3三	漢字を書く	71.2	68.8	72.1
	4一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものと適切なものを選択する	55.6	54.9	52.6
	言葉の特徴や使い方に関する事項			61.6	59.2
情報の扱い 方に関する 事項	1三	話し合いの中の発言について説明したものと適切なものを選択する	47.4	44	49.4
	2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものと適切なものを選択する	78.4	75.2	66.9
	情報の扱い方に関する事項			62.9	59.6
我が国の言 語文化に関 する事項	4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものと適切なものを選択する	75.7	75.6	81.2
	我が国の言語文化に関する事項			75.7	75.6
話すこと・ 聞くこと	1一	話し合いの中の発言について説明したものと適切なものを選択する	66.3	63.2	63.6
	1二	話し合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	73.9	68.5	75.3
	1四	話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	48.4	44.7	39.6
	話すこと・聞くこと			62.9	58.8
書くこと	3一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものと適切なものを選択する	83.7	81.4	78.6
	3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	52.1	49.3	45.5
	書くこと			67.9	65.3
読むこと	2一	本文中の図の役割を説明したものと適切なものを選択する	39.1	36.3	29.9
	2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	67.1	64.5	63.6
	2四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	48.2	42.6	39
	4二	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	48.8	48.3	42.9
	読むこと			50.8	47.9

2. 結果に対する課題と改善策

〈カテゴリー内容(観点)別の結果の課題と改善策〉

○言葉の特徴や使い方に関する事項

設問は3問だが、カテゴリーとしての平均も都平均・全国平均を上回っており、おおむね良好である。文脈に即して、漢字を正しく書くことや文の成分の順序や照応について理解できている。日頃より、文法事項の習熟や用例に即した漢字の読み書きについて力を入れているので、一層の習熟を目指す。短歌の表現技法の理解が十分でない生徒について、既習事項の復習をさせ、知識を定着させる。

○情報の扱い方に関する事項

設問は2問だが、「話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」は、都平均・全国平均を上回っており、意見と根拠など情報と情報の関係について理解できている。一方「本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する」は、都平均・全国平均を下回っている。書かれた文言が含有している意味合いを読み取る力が不足していると考えられる。現在、新聞教材等の積極的な活用を図っているが、情報を正確に読み取る力を育てるために、さらに機会を増やしていく。

○我が国の言語文化に関する事項

設問及びカテゴリー全体で良好な正答率で、いずれも都平均・全国平均を上回っている。今後も、一層の習熟を目指し、基礎的な知識の定着を継続して図っていく。

○話すこと・聞くこと

「話し合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む」は、都平均・全国平均を上回っており、資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができている。一方、話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることが弱い。

カテゴリー全体として、全国平均は上回ったものの都平均を下回っている。自分の考えをまとめ、話し合いやそれに基づく発表の場を従前より増やしていく必要がある。

○書くこと

「物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する」ことはできるが、「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」の正答率が低い。書くことについての能力は、個人差が多いと感じられるので、個別指導をより充実させ能力の向上を図る。

○読むこと

文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する力と目的に応じて必要な情報に着目して要約する力が不足している。

「情報の扱い方に関する事項」での分析同様、書かれた文言が含有する意味合いや表現上の価値を読み取る力に弱さが見られる。学校全体で朝読書など、読書指導に力を入れているが、今後は、さらに様々なジャンルの文章を意識して読むように指導をしていく。

【まとめ】

① 既習事項定着のための工夫

文法事項や語彙力等、一度学習し獲得した能力の定着を図る。教科書、自作プリント、確認テスト等問題演習を行う。また、その内容を定期テストにも出題することにより、復習する機会を与える。

② 言語能力の復習、確認の徹底

国語力の基礎となる部分。既習の漢字を使いこなすために用例の反復練習を継続して行う。また、語彙力を増やすために、定期的に問題演習を実施し、また、読書指導の中で語句の理解を深めさせ、言語能力の定着・向上を図る。

③ 個別指導の充実

書くことについての能力は、個人差が多いと感じられるので、論述・記述の構成を身に付けさせるために、生徒個人に合わせた具体的な個別指導をより充実させていく。また、日常の経験の言語化、読書の感想、要約等の機会を増やす。それらを生かし、話したり書いたりする際に効果的に伝える能力の向上を図る。